



Meiji University
Center for Mathematical Modeling and Applications

CMMMA Colloquium

第12回 現象数理学コロキウム

12

『証券化』はなぜ サブプライム金融危機を 引き起こしたのか



講演者：青山学院大学 小林孝雄
Takao KOBAYASHI

2015年 5月29日(金)

16:30~17:30

会場：明治大学中野キャンパス
高層棟6階 セミナー室3

※ 参加費無料、事前申し込み不要です。どなたでもご参加いただけます。

明治大学先端数理科学インスティテュート
現象数理学研究拠点



Abstract:

『証券化』は金融技術革新の偉大な成果のひとつと考えられてきました。住宅ローンの証券化商品である MBS (住宅ローン担保証券) の市場規模は 9 兆ドルと、米国債市場の 12 兆ドルに次ぐ大きさになっています。また、住宅ローンのデリバティブである CDO (債務担保証券) の仕組みは、サブプライム・ローンを担保にして倒産リスクの低い AAA 格の債券を大量に組成することを可能にし、金融機関はこの商品を購入することによって BIS (国際決済銀行) が定めた自己資本比率の数値の改善に努めてきました。

2001 年からはじまり 2007 年にピークを迎えるアメリカ、イギリスの住宅建設ブームは、この証券化技術なくしては成しえなかったものです。しかし、それと同時に、住宅価格バブルを発生させ、英ノーザンロック銀行や米リーマンブラザーズ証券、米住宅金融公庫 (ファニーメイ、フレディーマック) の破綻を引き起こした主役も、この証券化商品でした。

本講演では、証券化の基本的数理を解説し、それが社会のリスク負担能力を飛躍的に向上させるのはなぜか、またそれが資産バブルを膨張させ、最後には金融崩壊を招くメカニズムは何かについて考えてみたいと思います。

■連絡先

東京都中野区中野 4-21-1 明治大学中野キャンパス 8 階
明治大学先端数理科学インスティテュート

Tel. 03-5343-8067 E-mail : mims@mics.meiji.ac.jp